

屋久島町観光基本計画

策定委員会（第2回）資料

【資料1】 アンケート調査の概要及び回答者属性	P 1～6
【資料2】 町民と事業者が考える屋久島町の観光	P 7～11
【資料3】 屋久島町観光の現状	P 12～21
【資料4】 次期観光基本計画におけるポイント	P 22
【資料5】 観光基本計画（現計画）の評価	P 23～28
【資料6】 町民ワークショップについて	P 29～30

Ⅰ. 町民アンケート

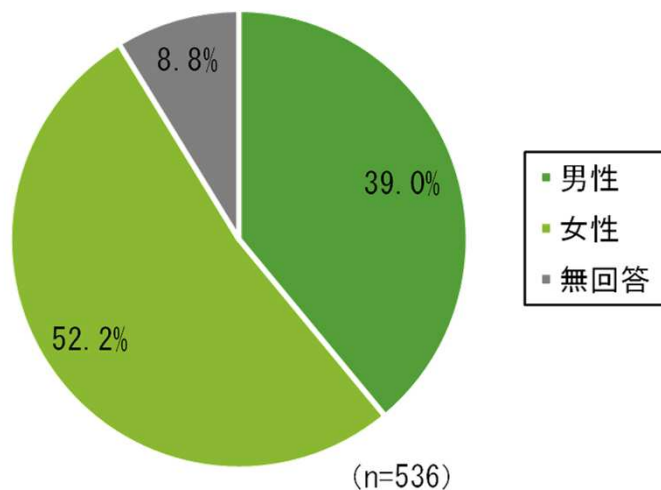
(Ⅰ) 調査概要

調査方法	郵送による配布・回収
調査期間	令和6年9月27日（金）～令和6年10月14日（月）
対象	屋久島町内にお住まいの15歳以上の町民2,000名（無作為抽出）
回答数	536（回収率26.8%）

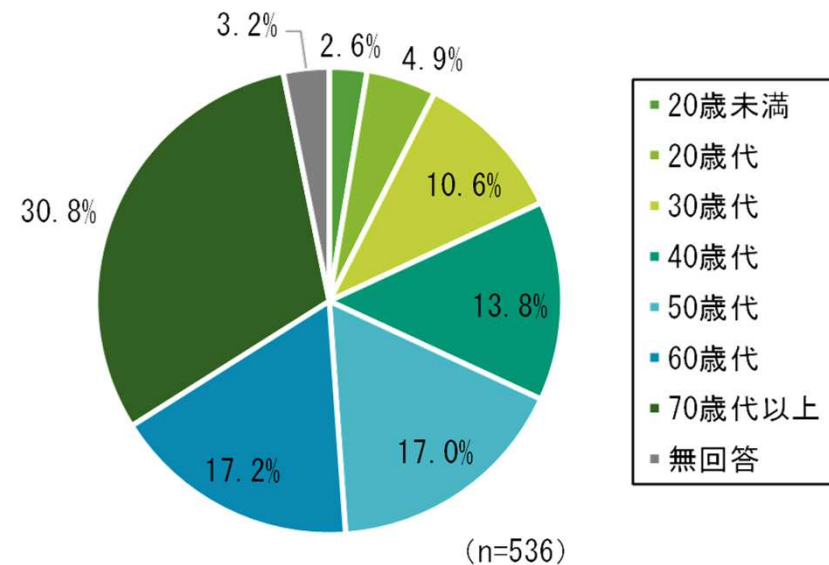
(Ⅱ) 回答者の属性

- ・性別は「男性」39.0%、「女性」52.21%
- ・年齢は「70歳代以上」30.8%、「60歳代」17.2%、「50歳代」17.0%

＜性別＞



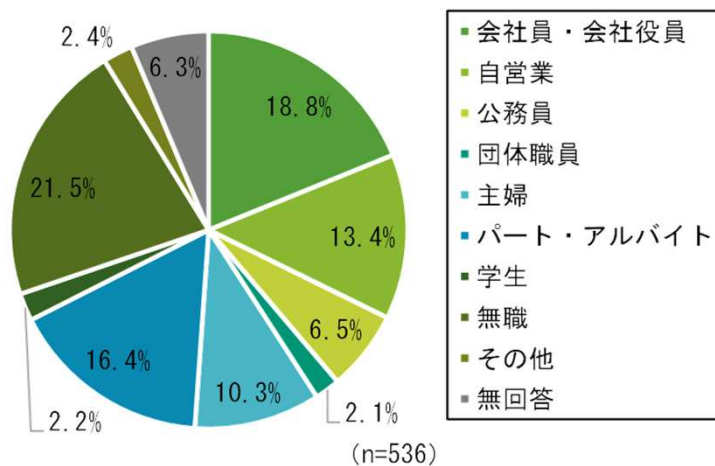
＜年齢＞



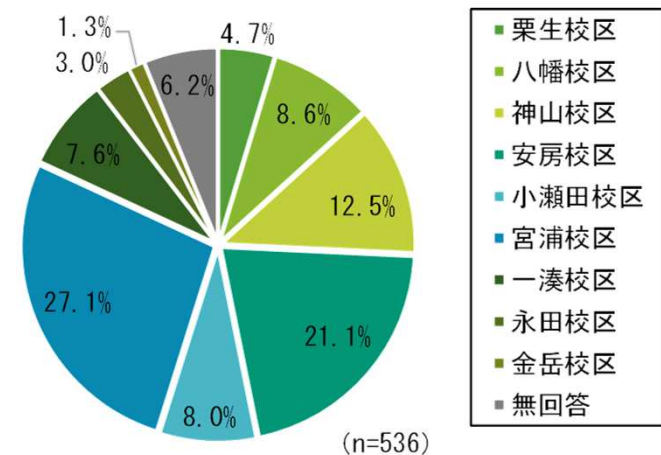
(2) 回答者の属性

- ・ 職業は「会社員・会社役員」18.8%、「パート・アルバイト」16.4%、「自営業」13.4%
- ・ 居住地は「宮浦校区」27.1%、「安房校区」21.1%、「神山校区」12.5%
- ・ 出身者・移住者は「屋久島町出身」35.6%、「Uターン」18.5%、「Iターン」36.4%
- ・ 移住者の居住年数は「20年以上」39.8%、「10年～19年」19.0%、「1年～4年」15.3%

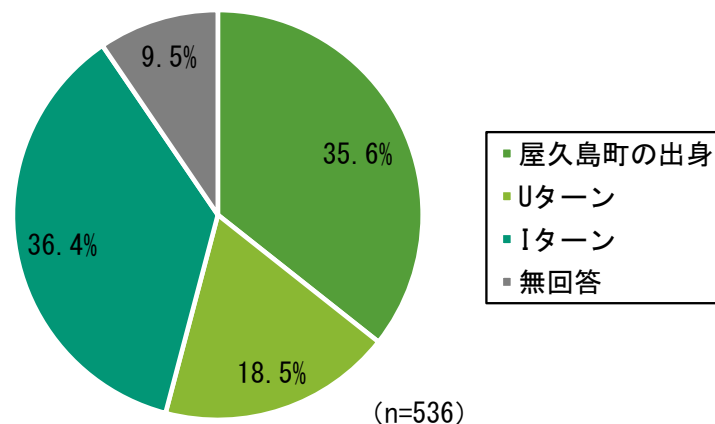
《職業》



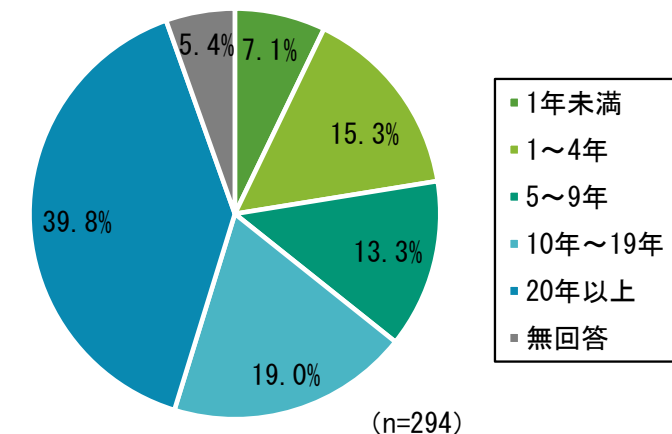
《居住地（校区）》



《屋久島町の出身者・移住者》



《移住者の年数》



(3) 送付実績（年代別）

単位：人、%

年齢	栗生校区		八幡校区			神山校区				安房校区						小計
	中間	栗生	小島	平内	湯泊	高平	麦生	原	尾之間	永久保	船行	松峯	安房	春牧	平野	
20歳未満	0	3	0	3	1	2	0	3	4	0	2	2	3	9	3	35
20歳代	1	1	1	5	1	0	5	4	10	1	1	8	17	10	8	73
30歳代	2	8	3	5	2	2	5	4	10	4	3	8	19	20	3	98
40歳代	7	6	9	19	8	2	9	8	10	2	9	15	24	26	9	163
50歳代	4	11	3	14	3	2	9	12	13	4	7	10	25	22	9	148
60歳代	8	13	5	16	6	8	7	17	21	6	5	7	20	23	8	170
70歳以上	16	29	9	51	15	6	16	24	44	6	14	23	35	34	18	340
計	38	71	30	113	36	22	51	72	112	23	41	73	143	144	58	1,027

年齢	小瀬田校区		宮浦校区			一湊校区			永田校区	金岳校区		小計
	小瀬田	長峰	宮之浦	楠川	梶川	吉田	一湊	志戸子	永田	本村	湯向	
20歳未満	6	4	25	0	0	0	1	2	4	0	0	42
20歳代	7	3	32	4	2	2	3	2	0	2	0	57
30歳代	3	10	56	6	1	1	6	6	6	2	0	97
40歳代	13	16	72	10	4	1	9	9	2	3	0	139
50歳代	14	5	83	10	3	2	15	10	8	1	0	151
60歳代	16	7	70	15	2	6	28	14	13	2	1	174
70歳代以上	17	22	138	24	7	12	44	12	27	9	1	313
計	76	67	476	69	19	24	106	55	60	19	2	973

発送	
合計	割合
77	3.85
130	6.50
195	9.75
302	15.10
299	14.95
344	17.20
653	32.65
2,000	100.00

人口	
合計	割合
386	3.85
650	6.49
979	9.77
1,514	15.11
1,496	14.93
1,719	17.16
3,276	32.69
10,020	100.00

(3) 送付実績（校区别）

単位：人、%

校区	集落	発 送						人 口					
		男	女	計	校区計	割合	校区計	男	女	計	校区計	割合	校区計
栗生校区	中間	17	21	38	109	1.90	5.45	98	101	199	587	1.75	5.15
	栗生	34	37	71		3.55		187	201	388		3.40	
八幡校区	小島	20	10	30	179	1.50	8.95	90	92	182	1,013	1.60	8.89
	平内	64	49	113		5.65		324	331	655		5.75	
	湯泊	18	18	36		1.80		83	93	176		1.54	
神山校区	高平	13	9	22	257	1.10	12.85	75	90	165	1,553	1.45	13.63
	麦生	27	24	51		2.55		139	147	286		2.51	
	原	35	37	72		3.60		209	219	428		3.76	
	尾之間	61	51	112		5.60		333	341	674		5.91	
安房校区	永久保	14	9	23	482	1.15	24.10	58	67	125	2,890	1.10	25.36
	船行	20	21	41		2.05		102	115	217		1.90	
	松峯	37	36	73		3.65		260	245	505		4.43	
	安房	72	71	143		7.15		451	441	892		7.83	
	春牧	75	69	144		7.20		435	437	872		7.65	
	平野	28	30	58		2.90		141	138	279		2.45	
小瀬田校区	小瀬田	37	39	76	143	3.80	7.15	195	209	404	813	3.54	7.13
	長峰	29	38	67		3.35		209	200	409		3.59	
宮浦校区	宮之浦	216	260	476	564	23.80	28.20	1,323	1,369	2,692	3,179	23.62	27.89
	楠川	38	31	69		3.45		189	197	386		3.39	
	楠川	8	11	19		0.95		42	59	101		0.89	
一湊校区	吉田	14	10	24	185	1.20	9.25	57	64	121	915	1.06	8.03
	一湊	52	54	106		5.30		283	233	516		4.53	
	志戸子	32	23	55		2.75		137	141	278		2.44	
永田校区	永田	19	41	60	60	3.00	3.00	168	185	353	353	3.10	3.10
金岳校区	本村	9	10	19	21	0.95	1.05	47	39	86	94	0.75	0.82
	湯向	0	2	2		0.10		5	3	8		0.07	
合計		989	1,011	2,000	2,000	100.00	100.00	5,640	5,757	11,397	11,397	100.00	100.00

2. 事業者アンケート

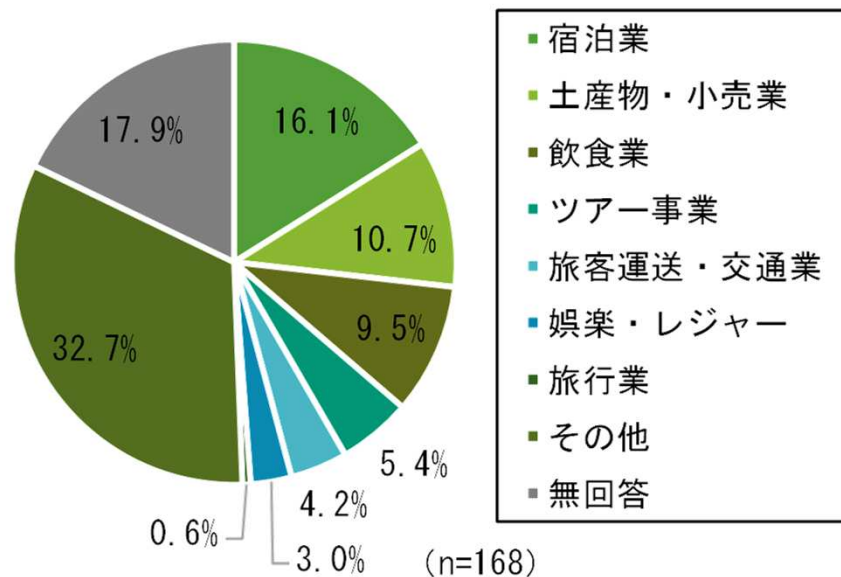
(1) 調査概要

調査方法	郵送による配布・回収
調査期間	令和6年10月28日（月）～令和6年11月22日（金）
対象	屋久島商工会及び屋久島観光協会に属する事業者（666事業者）
回答数	168（回収率25.2%）

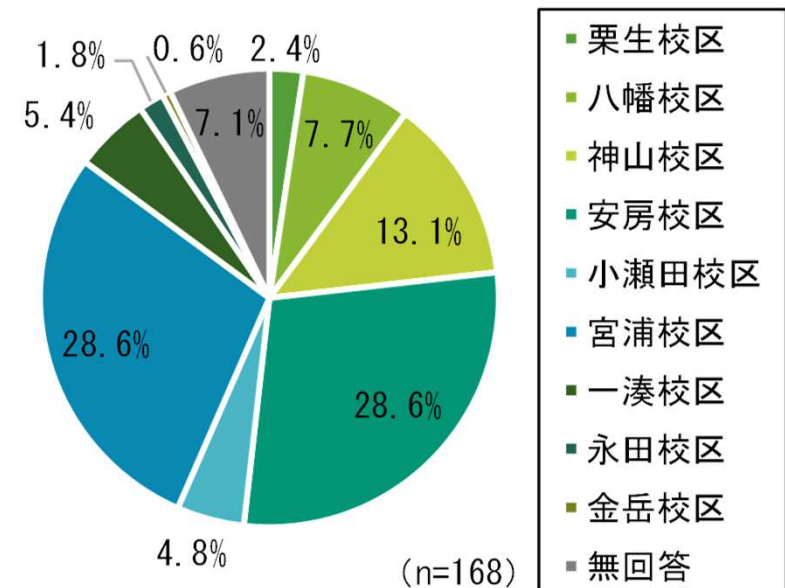
(2) 回答者の属性

- ・業種は「宿泊業」16.1%、「土産物・小売業」10.7%、「飲食業」9.5%
- ・事業所立地地域は「安房校区」、28.6%、「神山校区」13.1%、「八幡校区」7.7%

《 業種 》



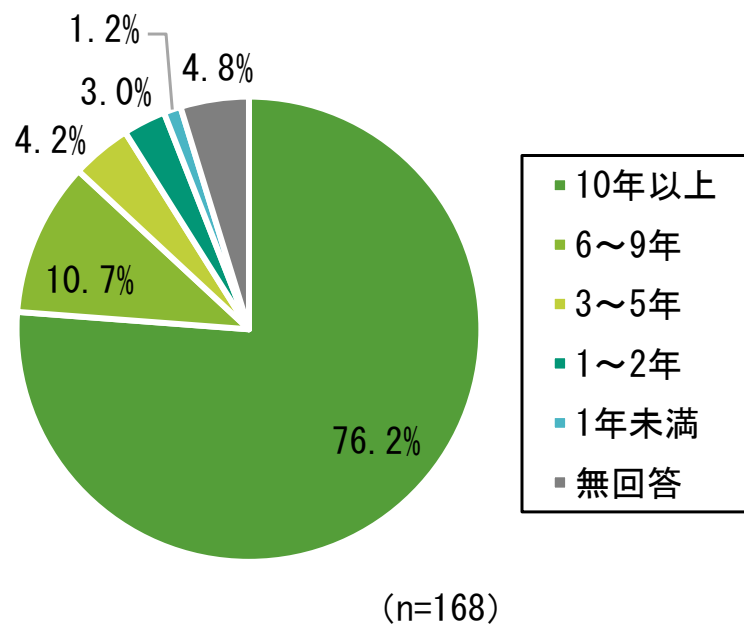
《 事業所立地地域 》



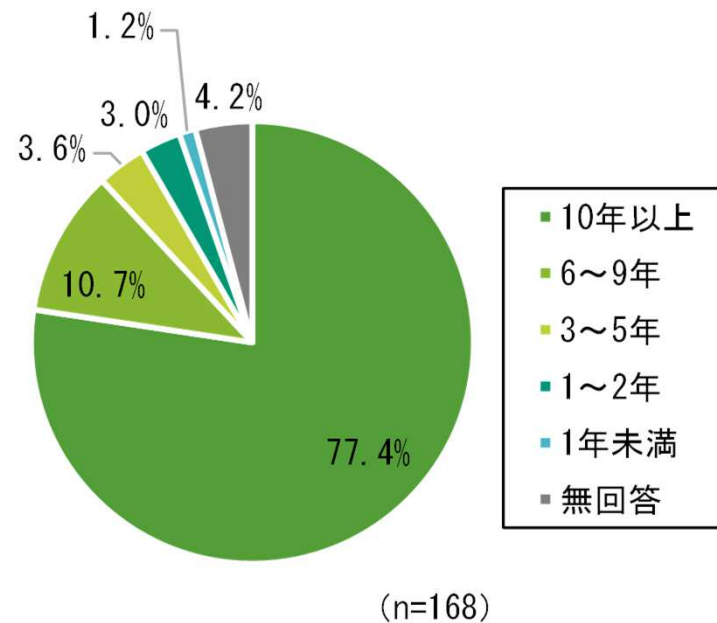
(2) 回答者の属性

・ 操業年数は「10年以上」77.4%、「6～9年」10.7%、「3～5年」3.6%。うち、町内での活動は「10年以上」76.2%、「6～9年」10.7%、「3～5年」4.2%

《 操業年数 》



《 うち町内での活動 》



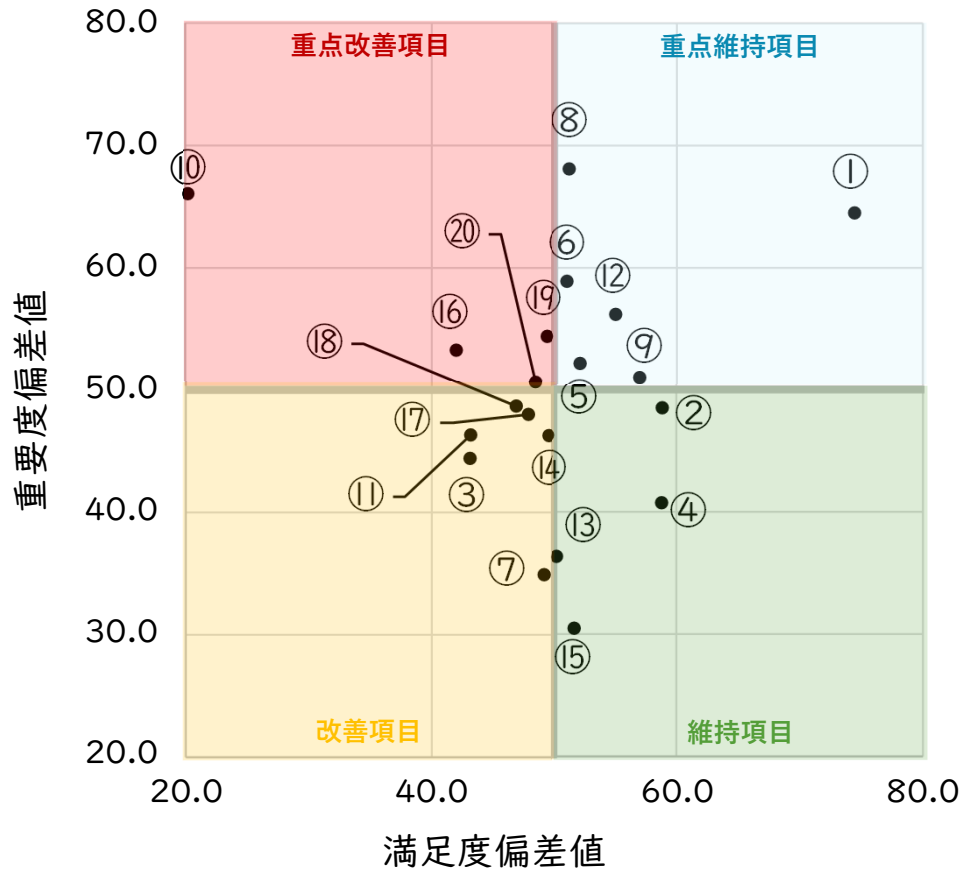
(Ⅰ) 現行計画の満足度と重要度

≪ 事業一覧 ≫

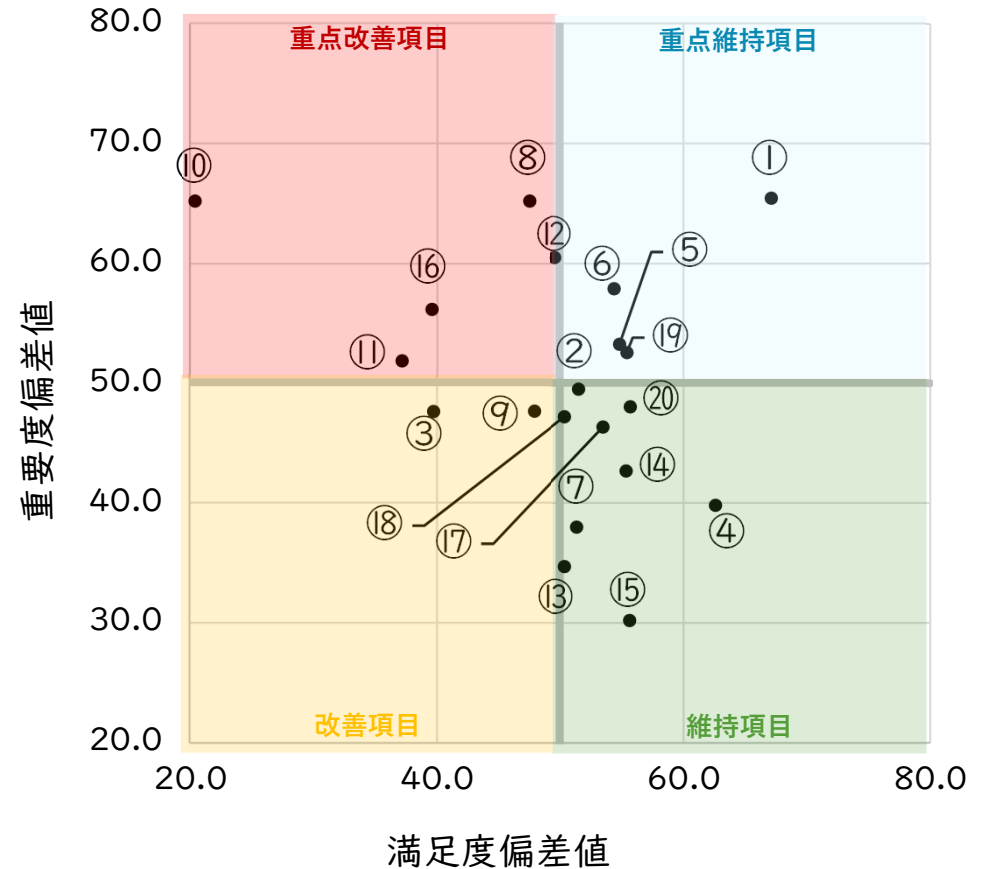
- | | |
|-----------------------|--------------------|
| ①山・海・川・里等の地域資源を活かした観光 | ⑪外国人観光客の受入れ整備と情報発信 |
| ②教育旅行の取り組み | ⑫観光に関する情報発信の強化 |
| ③雨の島「屋久島」を活かした観光 | ⑬町民主導のおもてなしの推進 |
| ④イベント・行事への観光客の参画 | ⑭歴史・文化を学ぶ機会の創出 |
| ⑤屋久島の食文化の発信と充実 | ⑮「島いここ※」の精神を担う人材育成 |
| ⑥土産品や食の開発と島内消費の促進 | ⑯観光に関わる島内の体制構築 |
| ⑦観光客と住民の交流促進 | ⑰ロ永良部島との連携の強化 |
| ⑧自然景観・環境の保全と整備 | ⑱県内外の他自治体との連携 |
| ⑨CO2フリーの島づくり | ⑲ロ永良部島のライフラインの復旧作業 |
| ⑩交通アクセス環境の整備 | ⑳ロ永良部島の再生と新たな魅力の創出 |

(1) 現行計画の満足度と重要度

《町民》

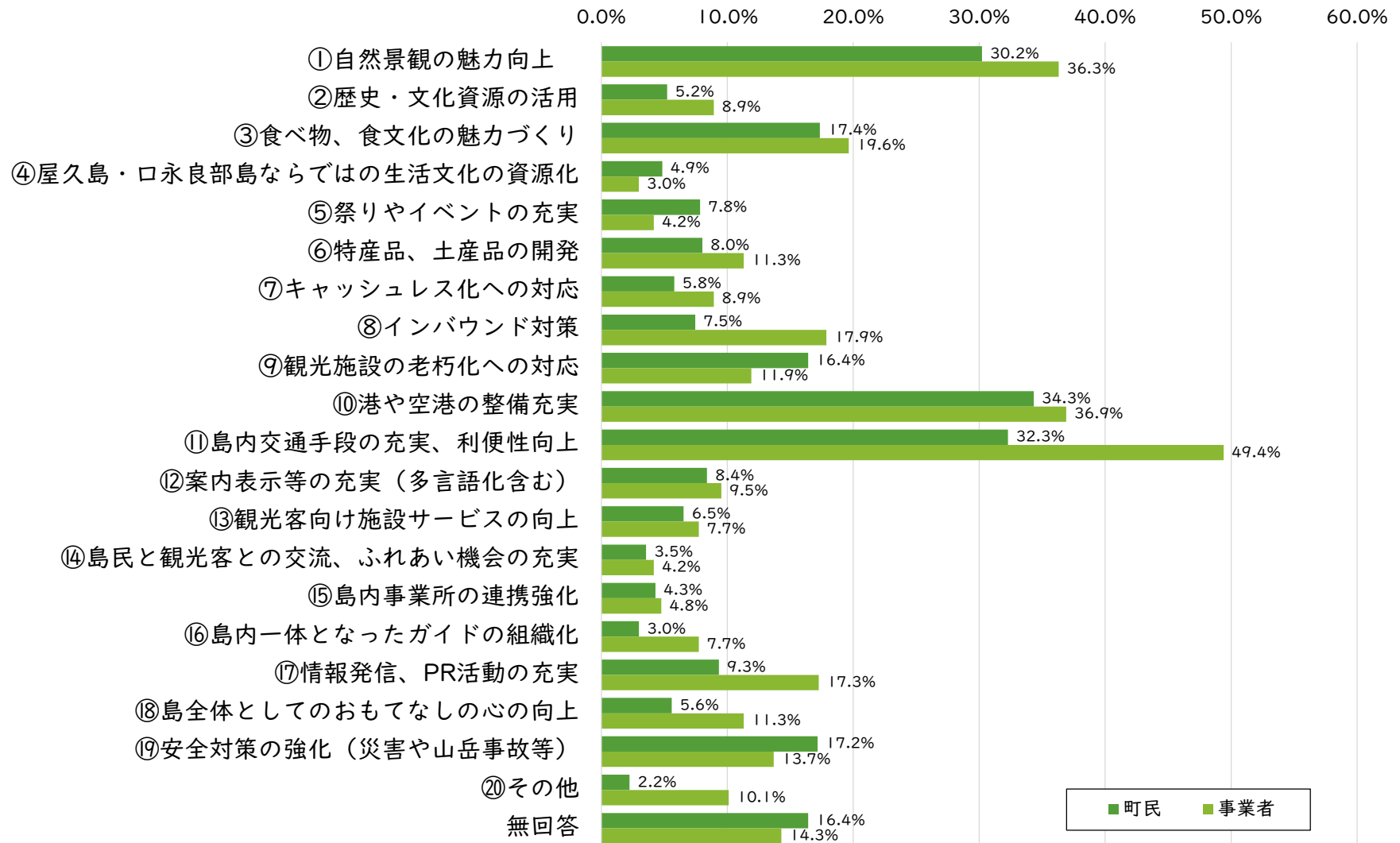


《事業者》



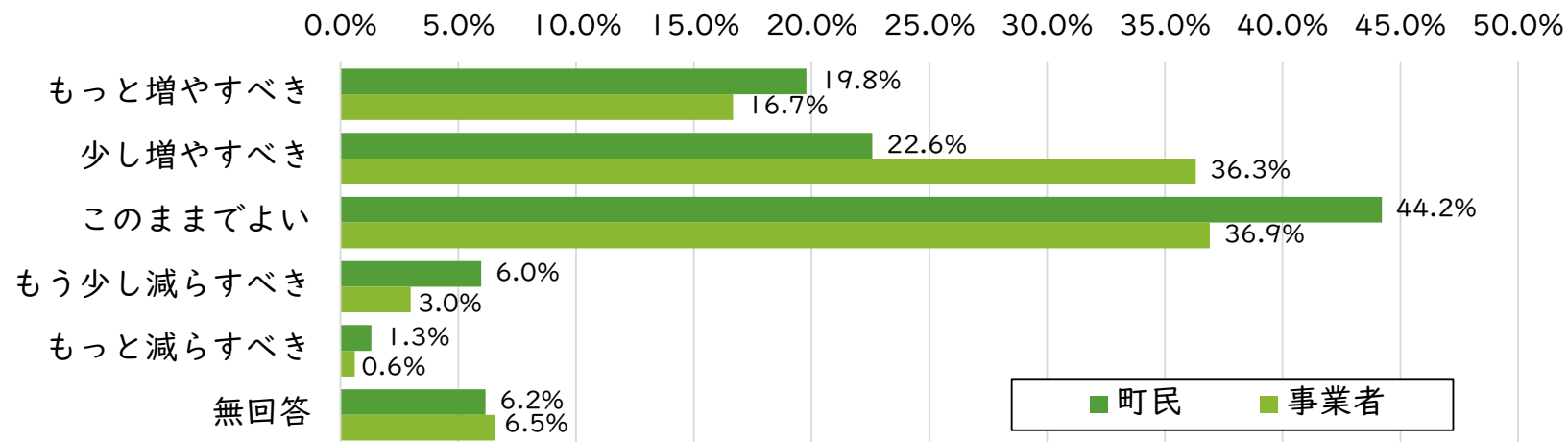
- ・ 重点改善項目はいずれも⑩が最も高い。その他町民では⑬⑱⑲が、事業者では⑧⑪⑫⑬が挙げられている。
- ・ 重点維持項目は、いずれも①⑤⑥が共通しており、その他町民では⑧⑨⑫が、事業者では⑱が挙げられている。

(2) 今後の観光振興で重要なこと



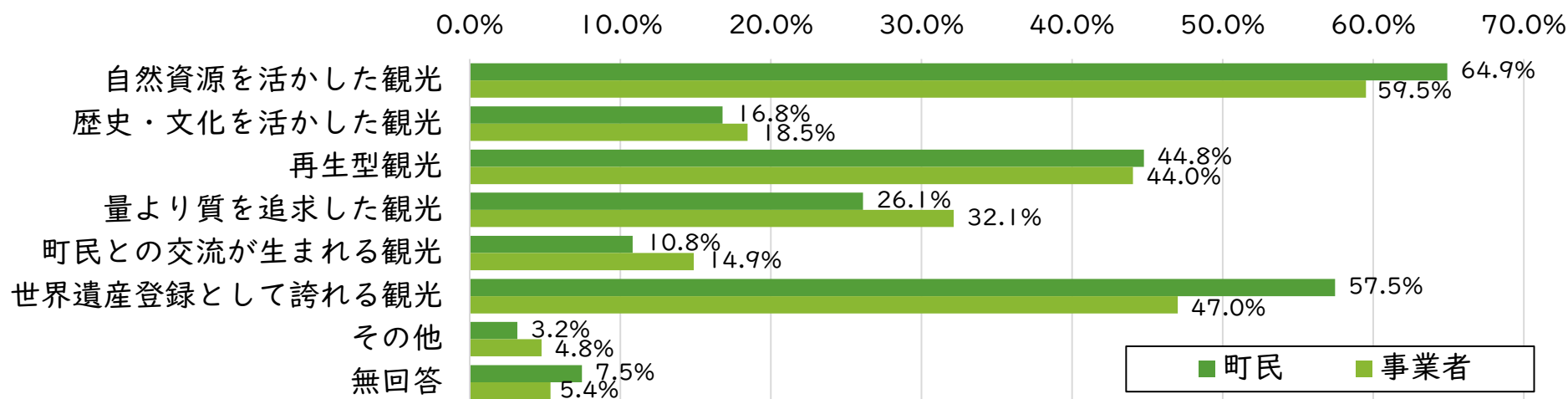
- ・ いずれも上位3つは「自然景観の魅力向上」「港や空港の整備充実」「島内交通手段の充実・利便性 の向上」
- ・ 「インバウンド対策」及び「情報発信」は事業者が町民よりも重要性を感じている。

(3) 観光客数について



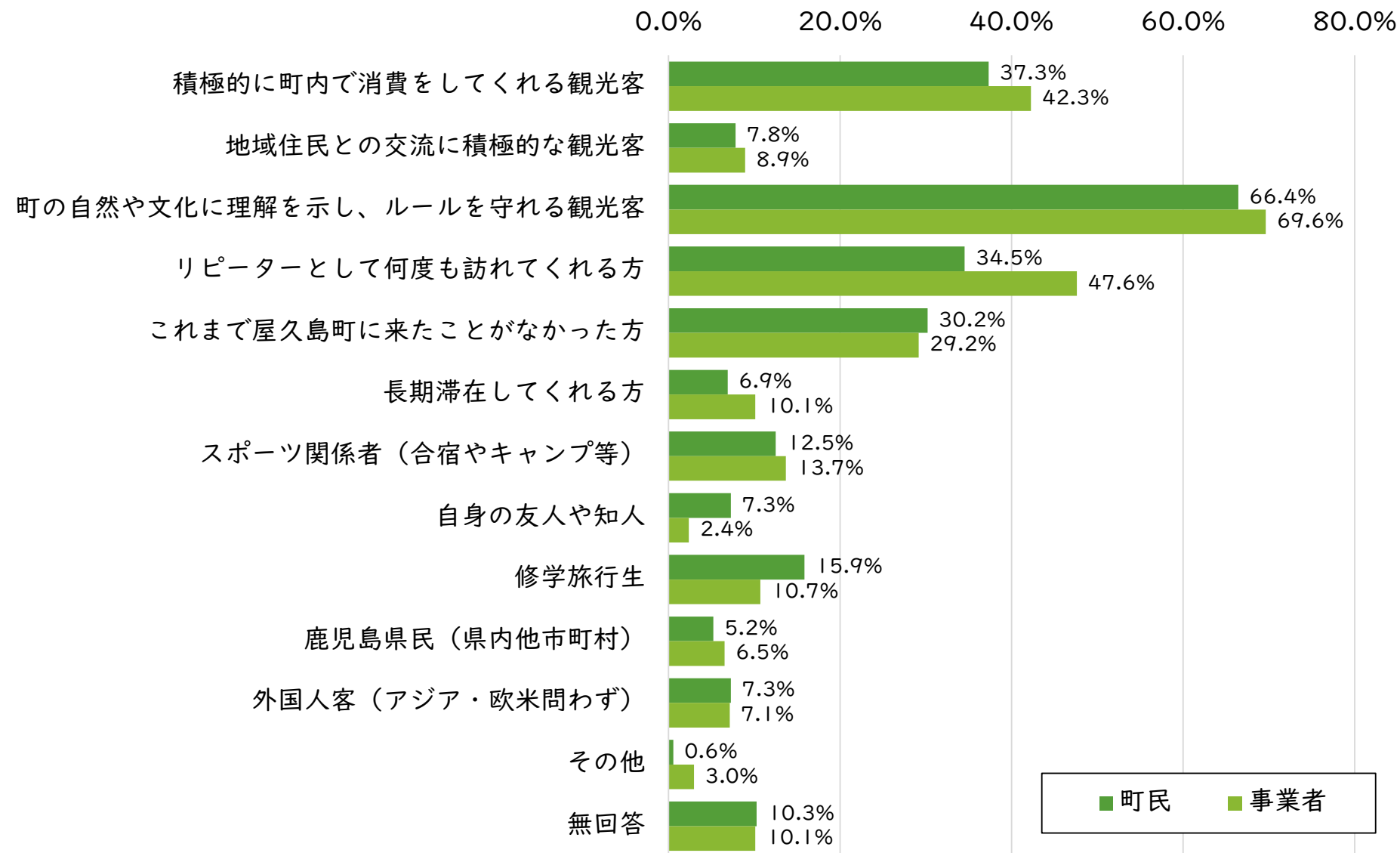
- ・「このままでよい」「少し増やすべき」の回答が多いが、事業者は「このままでよい」と「少し増やすべき」が同数程度、町民は「このままでよい」が4割以上を占め、「少し増やすべき」は2割程度

(4) 目指すべきキーワード



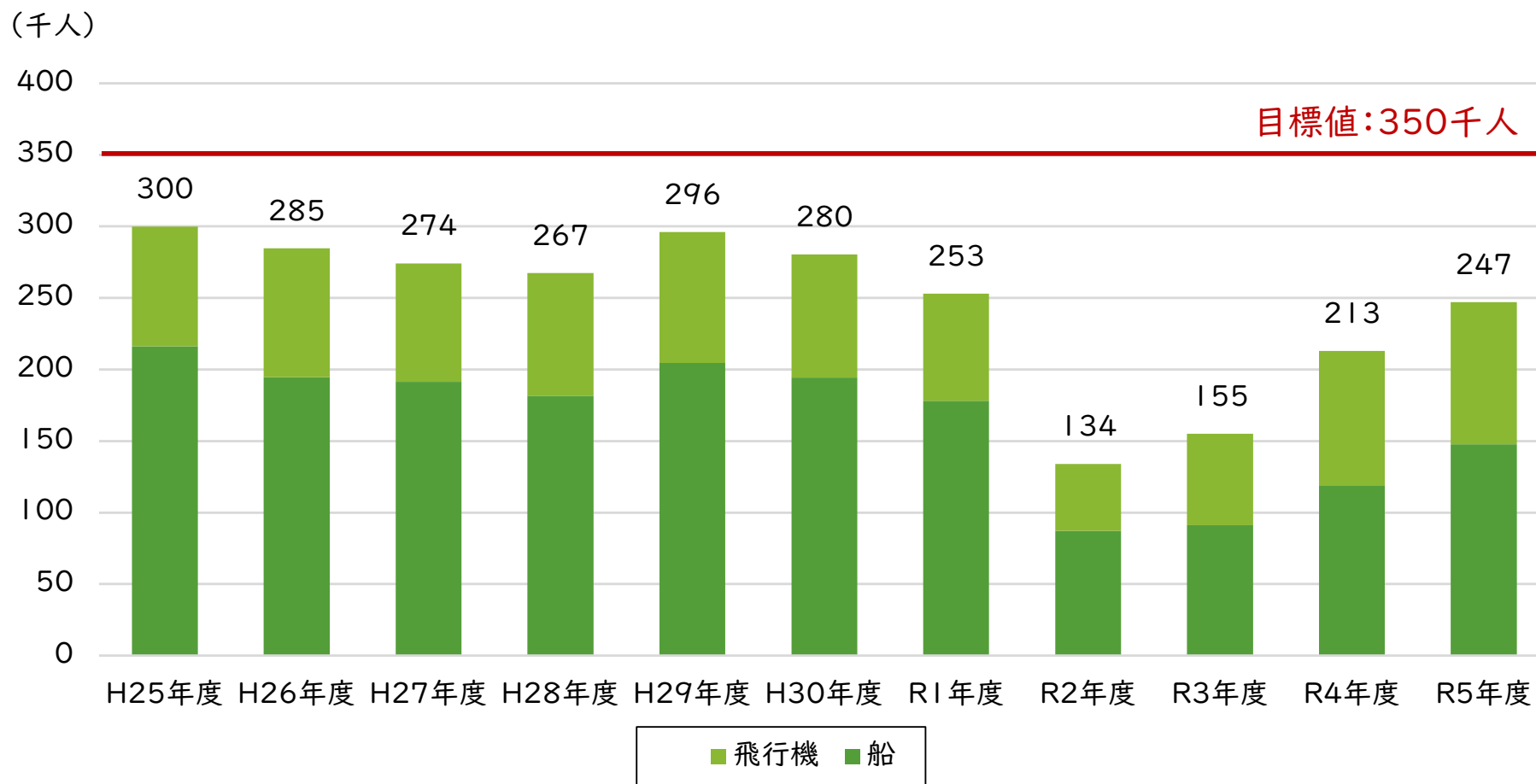
- ・いずれも上位3つは「自然資源を活かした観光」「世界遺産として誇れる観光」「再生型観光」となっている。

(5) どの様な観光客に訪訪してほしいか



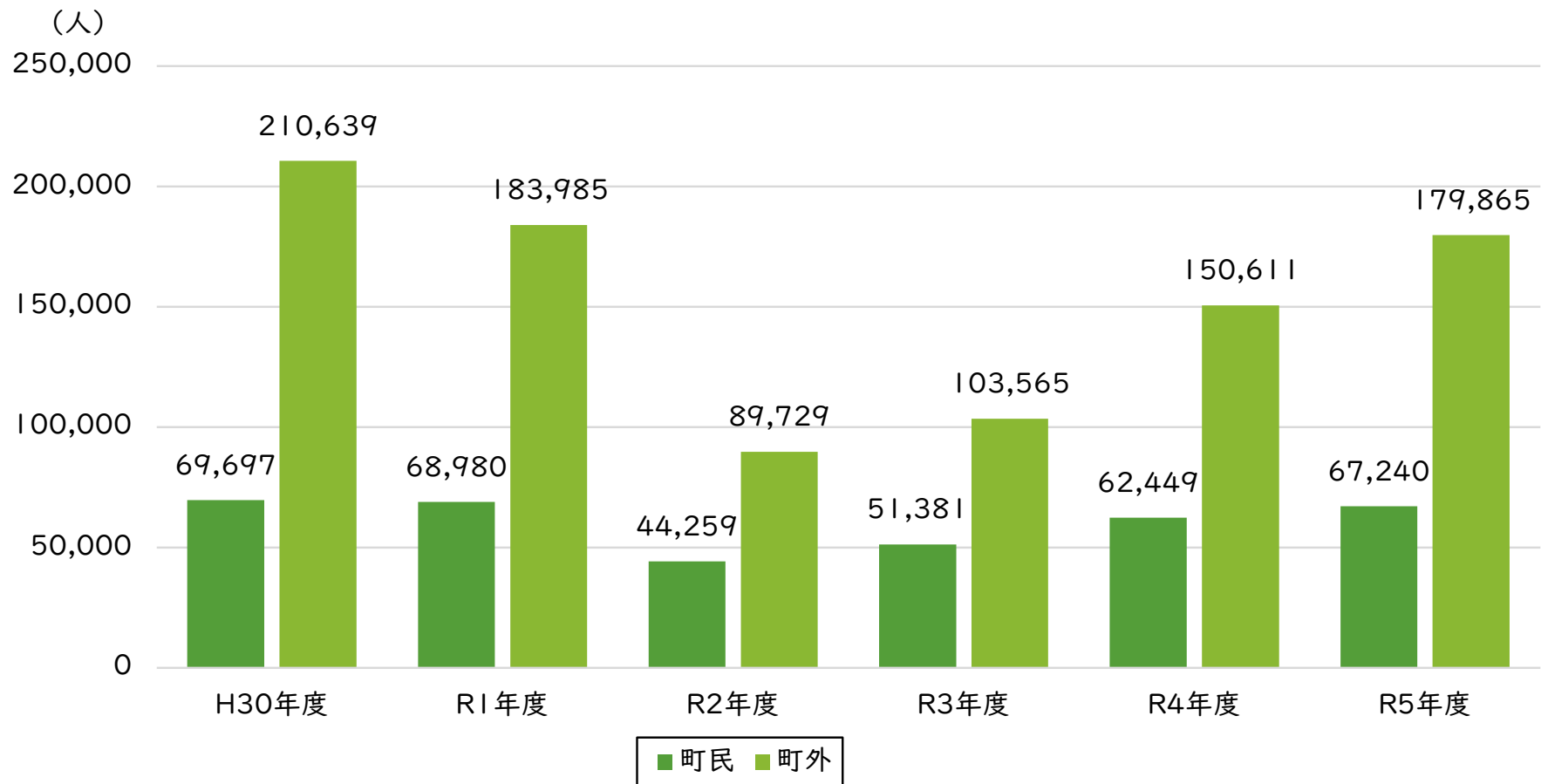
・ いずれも「町の自然や文化に理解を示し、ルールを守れる観光客」が7割程度を占めている。次いで「町内で消費をしてくれる人」「リピーターとして何度も訪れてくれる方」となっている。

《入込客数（統計 屋久島町）》



・入込客数はコロナ禍からは回復傾向となっている一方、長期間で見ると年々減少傾向となっている。現計画における令和2年度の目標値350千人は非達成。

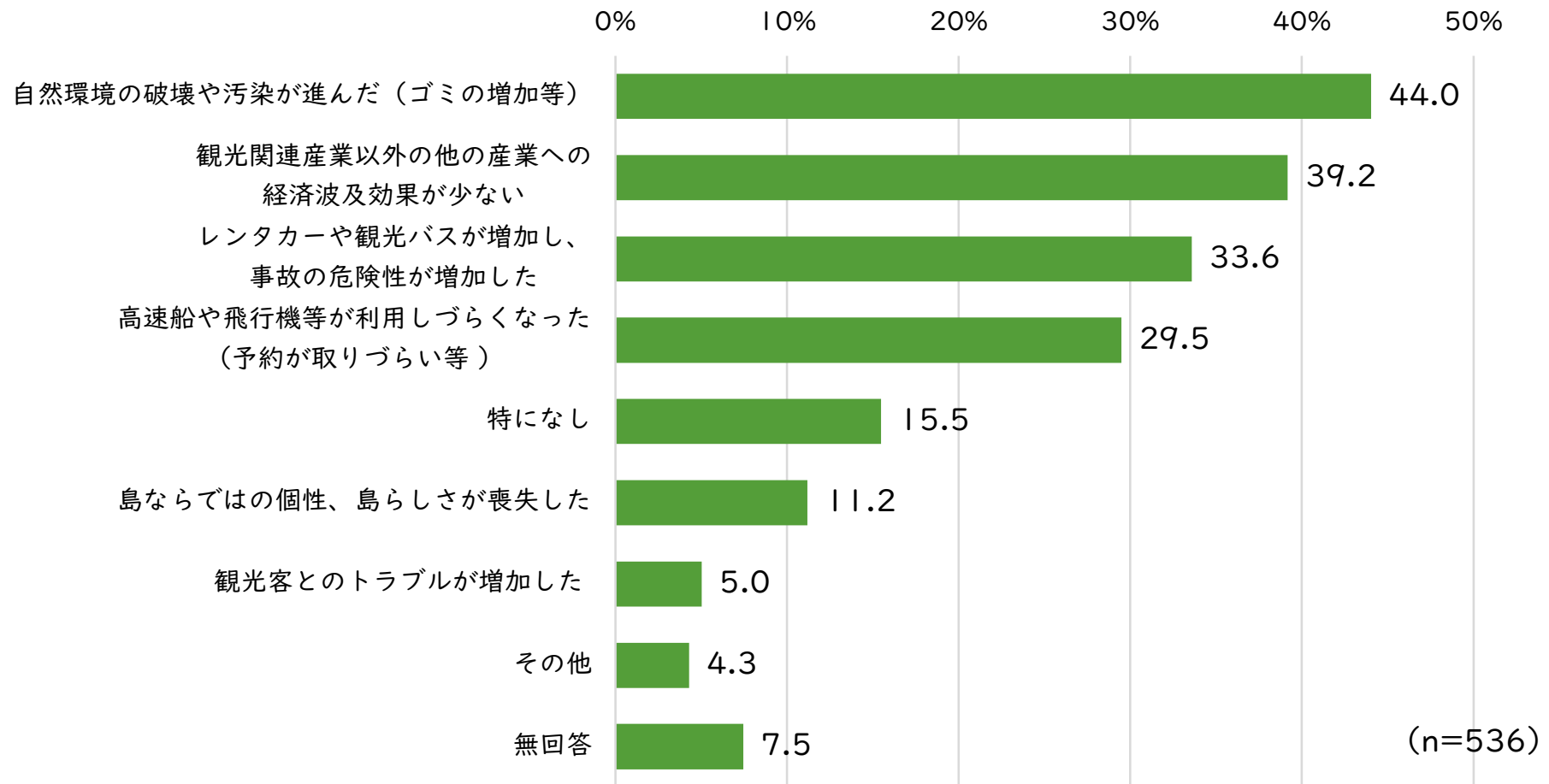
《入込客数のうち町民・町外利用者の推移（屋久島町資料）》



※町民利用は離島割引カード利用者の実績数

- ・入込客数の内、例年7割前後が町外の利用者となっている。令和5年度の利用者数は、町民が67,240人、町外が179,865人となっており、コロナ前の平成30年度の利用者数と比較して、町民は96.5%、町外は85.4%まで回復している。

《観光による悪影響（町民アンケート）》



- ・町民アンケートでは「自然環境の破壊や汚染が進んだ（ゴミの増加等）」や、「観光関連産業以外の他の産業への経済波及効果が少ない」等、観光振興によるネガティブな影響を感じていることから、適正な入込客数や屋久島町としての観光客像の検討が必要と考えられる。
- ・観光産業は一般的に他産業への経済波及効果が大きく、すそ野の広い産業と言われているが、本町においてはそのように受け取られていない。

≪消費額（R6観光アンケート）≫

（個人旅行）

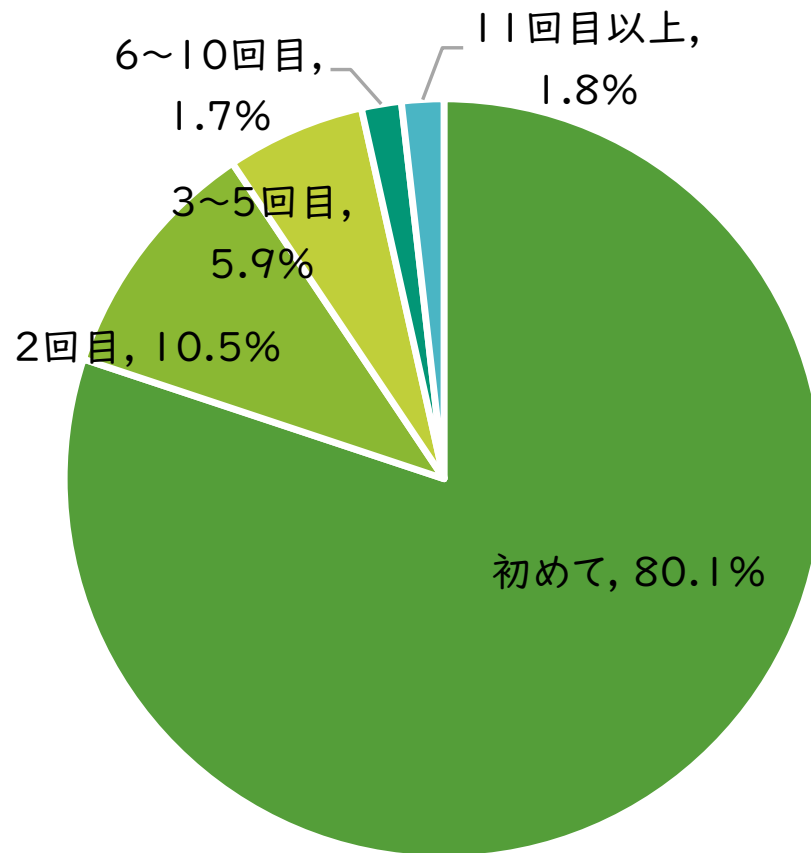
	令和4年度	令和5年度	令和6年度
屋久島までの交通費	-	46,588	42,142
島内での交通費	10,640	10,252	10,268
宿泊費	40,504	32,129	31,118
飲食費	10,686	10,923	10,485
施設入場料	1,323	1,049	906
ガイド料	9,416	8,328	8,183
体験料	1,984	2,344	2,225
土産品・買い物	8,710	9,511	9,181
その他	1,386	1,573	627
合計	150,337	148,552	137,299

（団体・パック旅行）

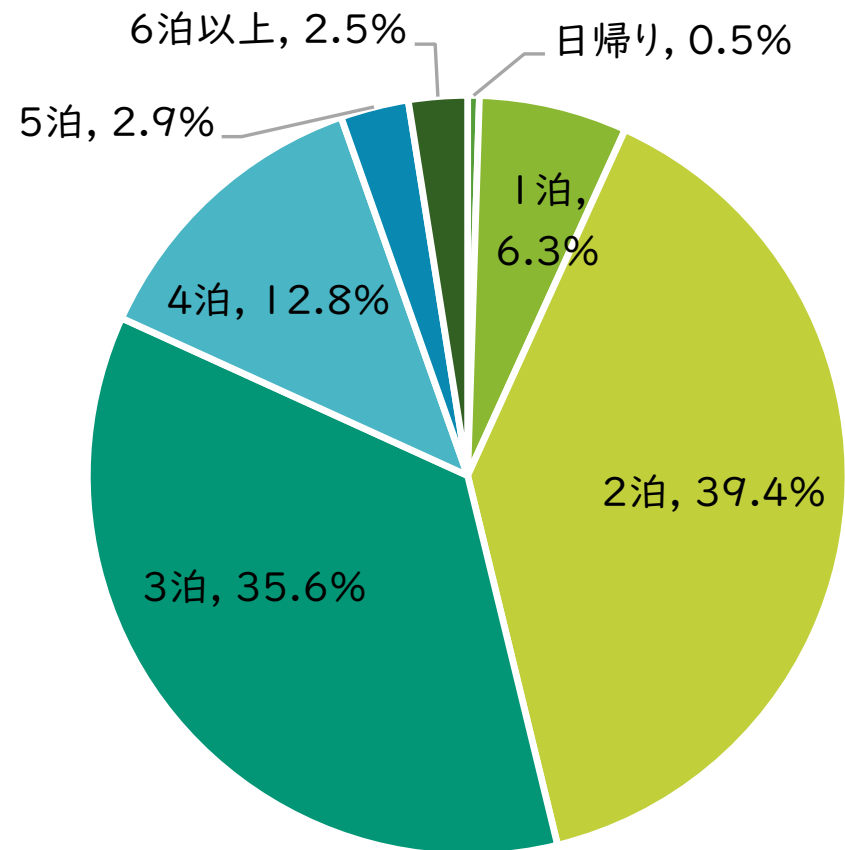
	令和4年度	令和5年度	令和6年度
パック・ツアー代金	106,540	116,787	119,416
島内での交通費	5,831	4,602	4,525
飲食費	8,008	7,146	7,766
施設入場料	849	738	925
ガイド料	6,182	7,169	5,713
体験料	1,206	1,260	1,768
土産品・買い物	7,967	9,649	9,759
その他	716	1,200	466
合計	115,135	122,698	84,649

- ・個人旅行では、宿泊費が年々減少傾向となっている。
- ・団体・パック旅行では、「パック・ツアー代金」に占める割合が高く、島外の旅行代理店にお金が落ちてしまっている可能性がある。
- ・一方、「体験料」「土産品・買い物」は個人旅行・団体・パック旅行ともに増加傾向となっている。

《訪問回数（R6観光アンケート）》

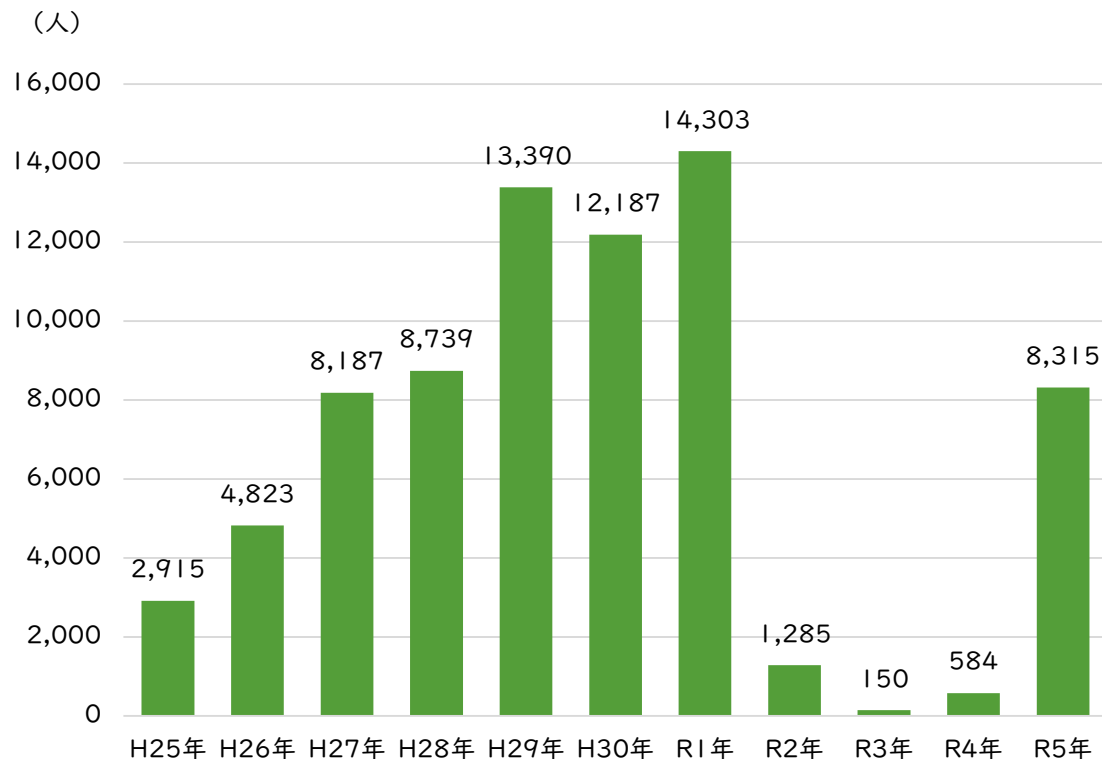


《宿泊数（R6観光アンケート）》

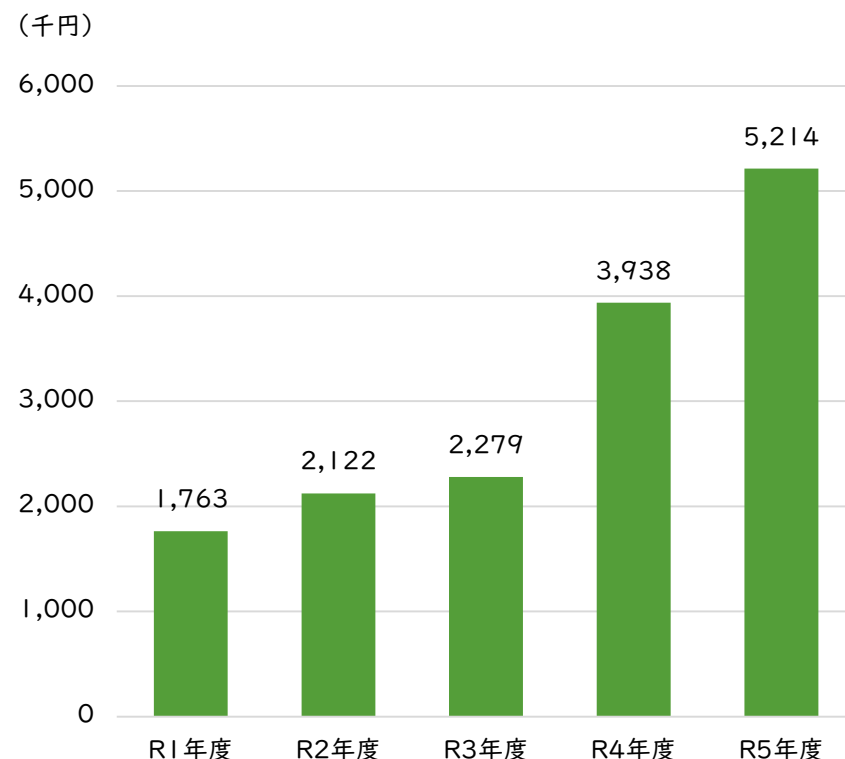


- ・リピーターは例年8割程度が初めての訪問、2回目の訪問が1割前後、3回以上の訪問も一定数存在する。
- ・個人旅行の宿泊日数は2泊、3泊が全体の8割程度を占め、日帰りや1泊での観光客も一定数存在する。年々個人旅行の宿泊費が減少していることから、宿泊日数の長期化を図ることが求められる。

《屋久島地区の外国人延べ宿泊者数
(鹿児島県の観光の動向)》



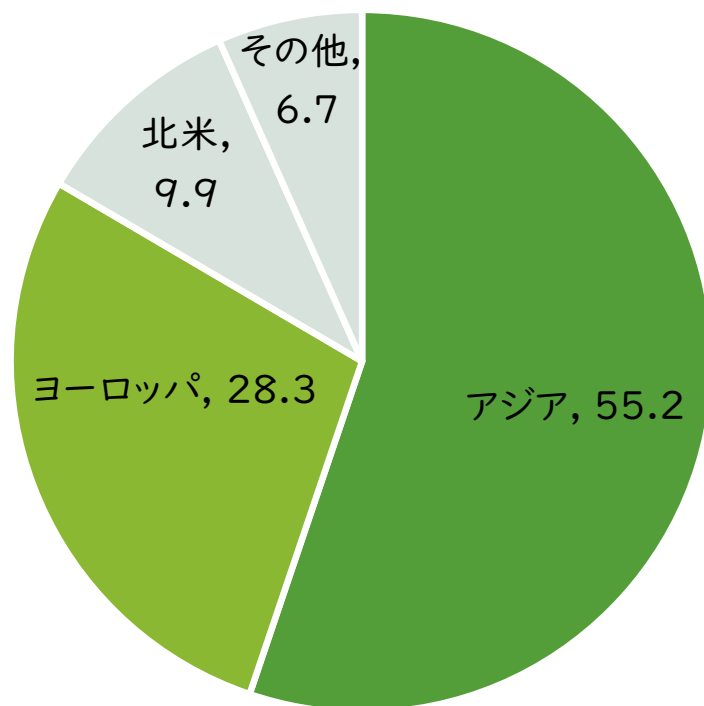
《屋久島町訪日外国人旅行者受入環境整備事業
補助金交付実績額の推移(屋久島町資料)》



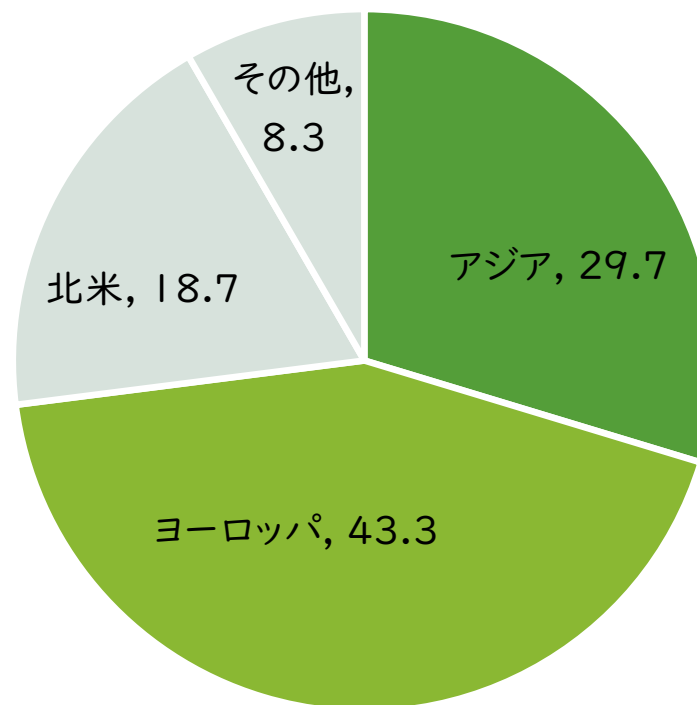
- ・屋久島への外国人延べ宿泊者数は令和2年度に新型コロナウイルスの影響で大きく減少。その後徐々に回復傾向となっている。令和4年から5年にかけて、鹿児島県での国際便の運航や国際クルーズ船の受け入れ再開により、令和5年には令和1年と比較して6割程度回復しており、今後さらなる増加が見込まれる。
- ・補助金支援(R1～R5)によりインバウンドの受入環境整備に取り組んでいるが、観光に関するアンケートではWi-Fi環境やキャッシュレスの満足度は低い。

《インバウンド入林者内訳（屋久島レクリエーションの森森保護管理協議会）》

平成30年

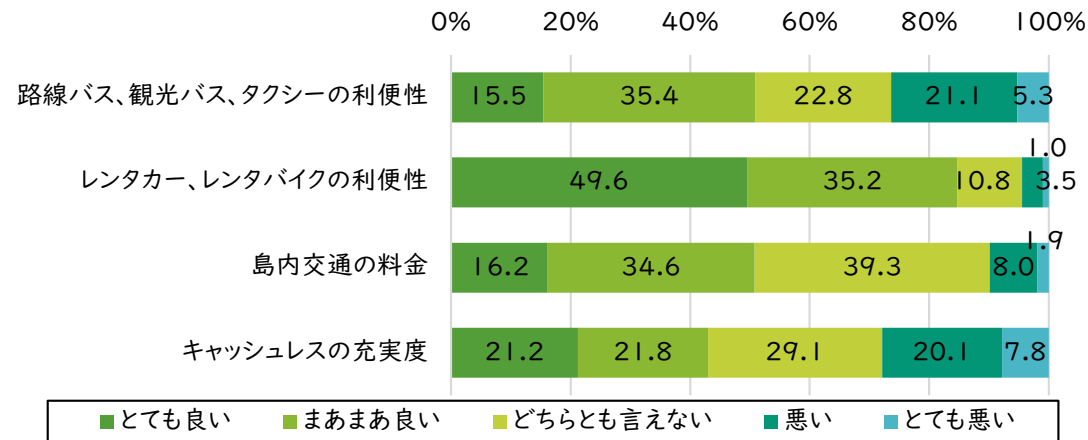


令和5年

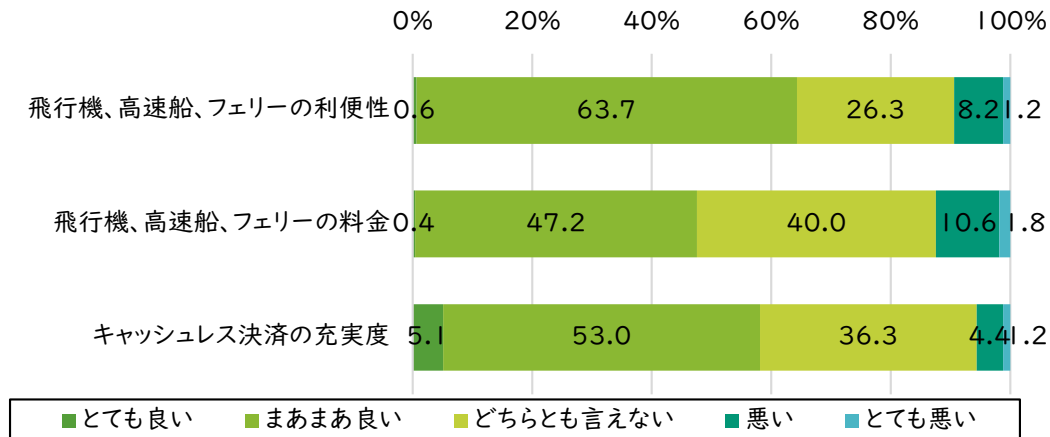


・インバウンドの内訳は、鹿児島県全体では直行便のあるアジア圏（香港・韓国・台湾・中国）が多いが、屋久島ではコロナ禍を経て、ヨーロッパの割合が増加している。

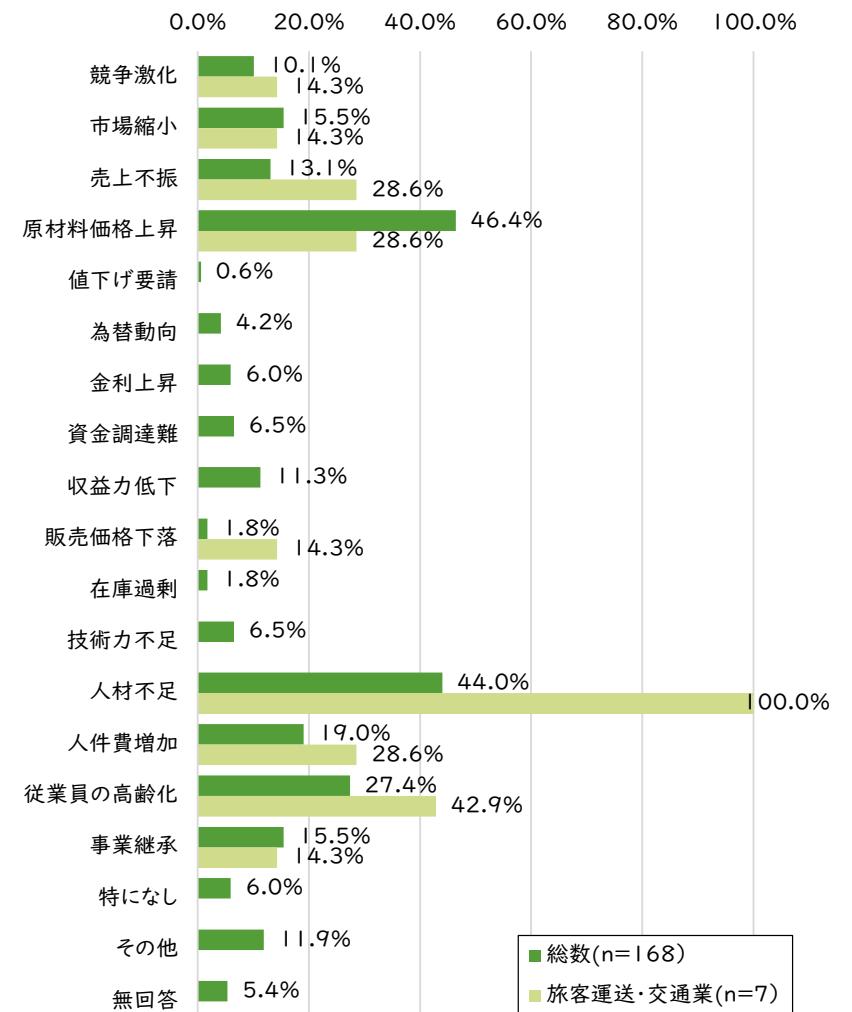
≪ 島内交通の評価
（R6 屋久島町観光に関するアンケート調査） ≫



≪ 島外交通の評価
（R6 屋久島町観光に関するアンケート調査） ≫

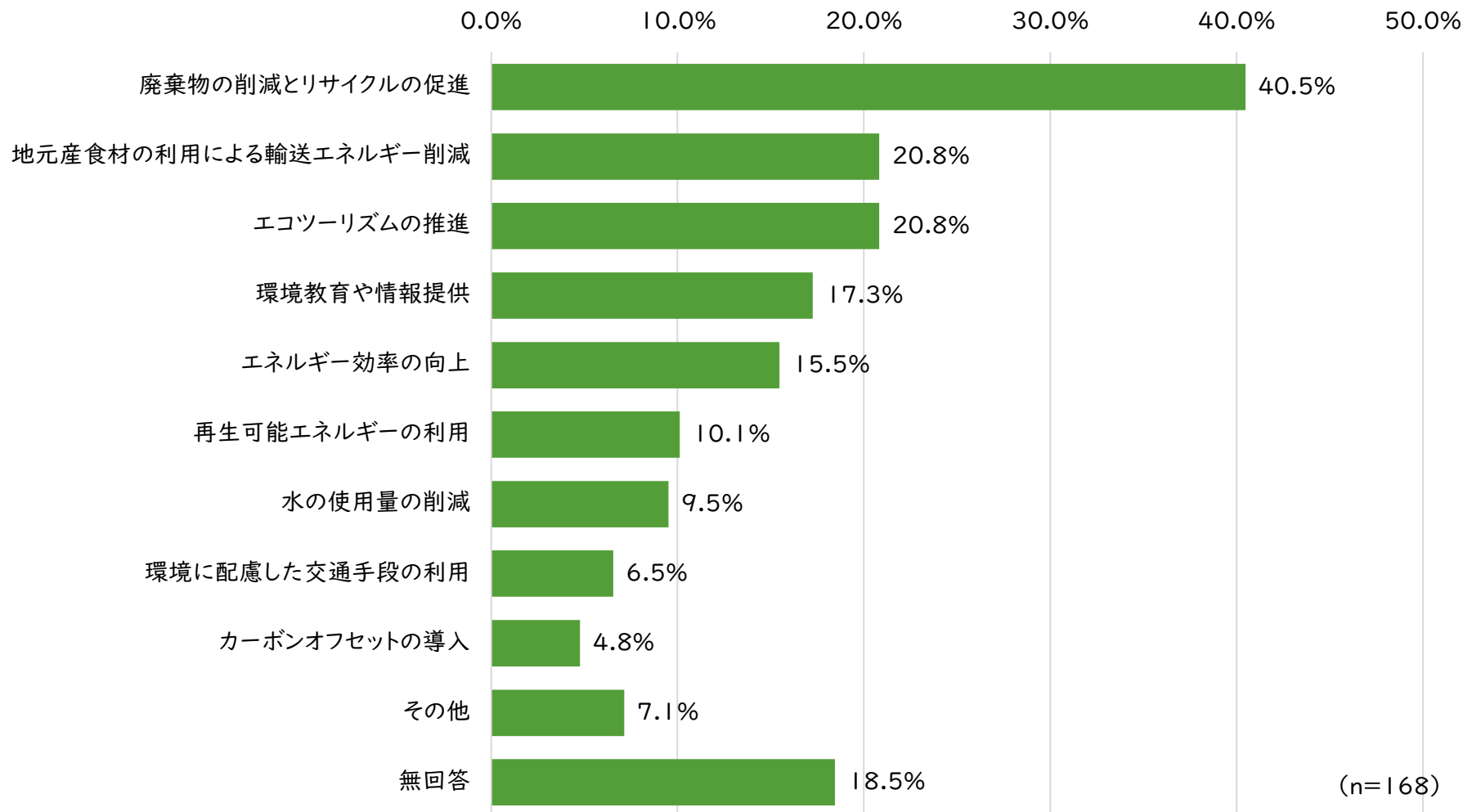


≪ 業種別問題点（事業者アンケート） ≫



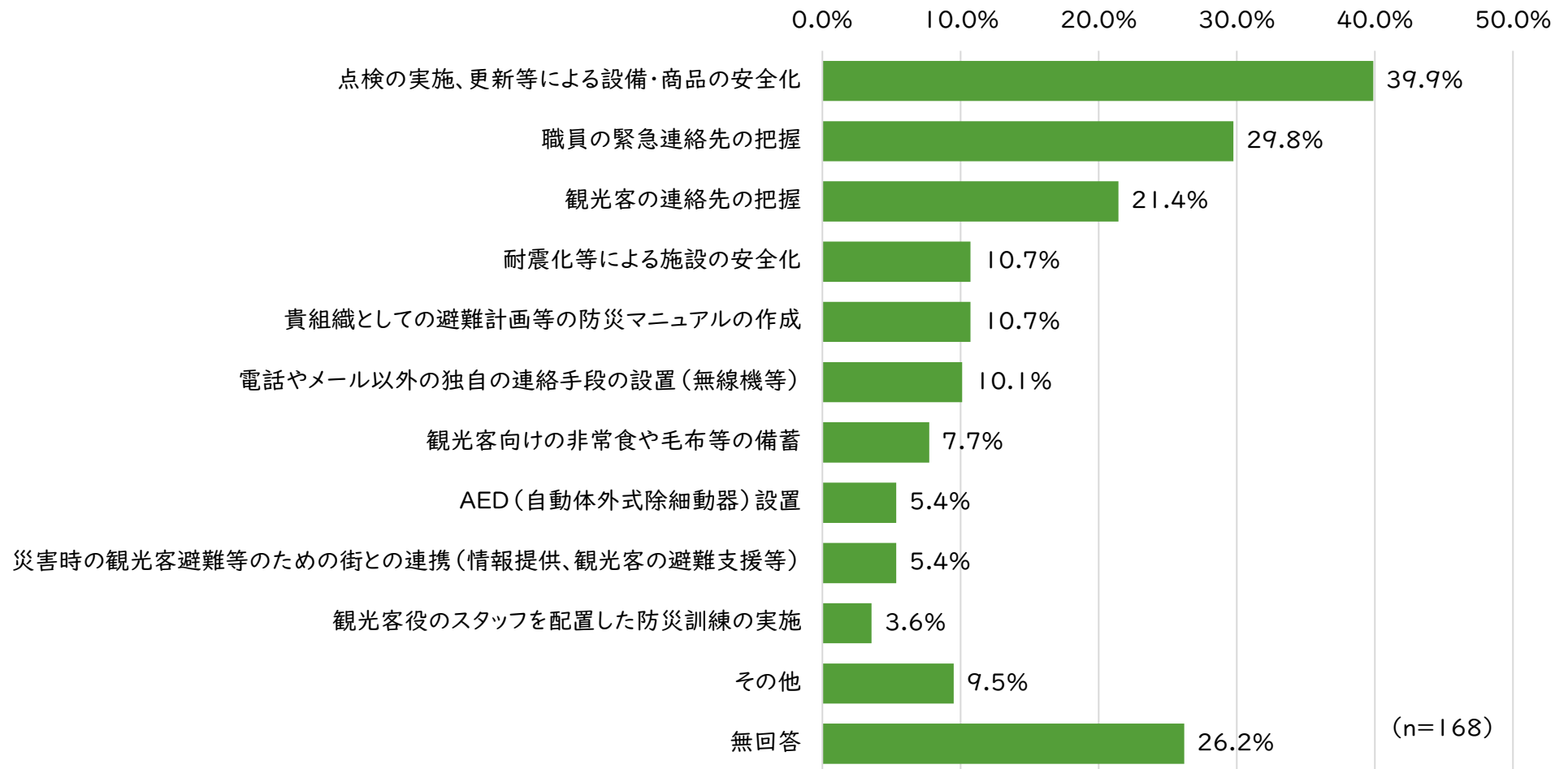
- ・ 島内交通の評価としては、特にバス・タクシーの利便性やキャッシュレスの評価が低い。
- ・ 島外交通の評価としては、料金の評価が低い。
- ・ 旅客運送・交通業の経営上の大きな問題点として、「人材不足」や「従業員の高齢化」が挙げられる。

《環境負荷の軽減の取り組み（事業者アンケート）》



・環境負荷の軽減の取り組みとして、約4割が「廃棄物の削減とリサイクルの促進」に取り組んでおり、その他「地元産食材の利用による輸送エネルギー削減」「エコツーリズムの推進」等に取り組んでいる。

《防災に関する取り組み（事業者アンケート）》



・防災に関する取り組みとして、約4割が「点検の実施、更新等による設備・商品の安全化」に取り組んでおり、その他「職員の緊急連絡先の把握」「観光客の連絡先の把握」等に取り組んでいる。

次期観光基本計画におけるポイント

I 自然資源の保全と活用と安全性の確保

自然資源の更なる魅力向上による活用促進とともに、事業者や町民の環境保全に対する意識醸成等、自然資源の保全・整備を徹底し守っていく必要がある。さらに、口永良部島の活火山、年間平均降水量の多さ等もあり、自然資源の活用にあたっては、屋久島町では安全面への対応策が必要。

II 観光客数の適正化

観光事業者や町民だけでなく、観光客も含めた屋久島に関わる全ての人が屋久島を守る責務があり、町民の暮らしへや自然環境への影響も鑑みて、適正な観光客数を定めるとともに、屋久島町にとって質の高い観光客を設定し呼び込むことが必要。

III 利便性の高い観光地域づくり

2033年に予定されている屋久島空港の滑走路延長により、観光客の増加やインバウンド等の客層が広がると予想される。観光客の受け入れ拡大にあたって、島内交通手段の整備、キャッシュレスや多言語対応、情報の一元化等の利便性の向上が必要。

IV 観光消費額の向上

宿泊日数の長期化を図るとともに、他産業との連携を深めた観光振興により、島全体への経済波及効果を生み出すとともに、島とともに暮らす人々の生活がより豊かになるような施策が必要。

V 島内体制の構築

各関連団体間の役割分担の明確化、連携強化により、地域一体となった観光振興を進めることが必要。さらに、事業者の人材不足や高齢化への対応策を検討し、観光客の受け入れ態勢を整える必要がある。

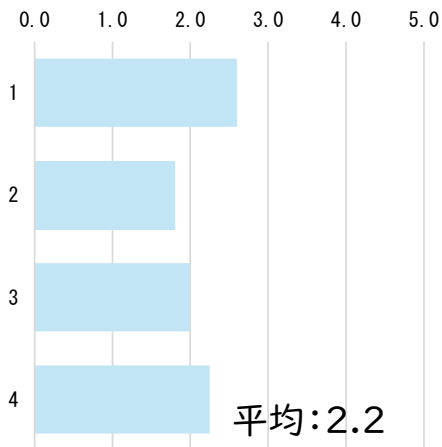
【基本理念】エコツーリズムによる世界自然遺産「屋久島」の価値創造と観光立町

基本方針	具体的施策
基本方針1 エコツーリズムの島「屋久島」から世界に誇れるワンランク上の観光まちづくり 【島内受入態勢】	
	1 世界自然遺産の魅力を高める山・川・海・里のエコツアーや体験型メニューの充実 2 次世代リピーター育成に向けたメニューの充実 3 雨の島「屋久島」を観光資源とした取り組みの展開 4 観光客協力・参加型イベントや行事の開催
基本方針2 地域資源（ヒト・モノ・カネ）の融合による循環する仕組みづくり 【地域連携・循環】	
	5 屋久島独自の地産地消流通体制の構築と食の充実 6 地場産業と連携した島内消費を促す仕組みづくり 7 観光客と住民の交流機会の創出
基本方針3 満足度向上につながる受入基盤・環境の整備と情報発信～住民、観光客双方が快適に過ごせるまち「屋久島」受入 【受入基盤・環境整備】	
	8 世界自然遺産にふさわしい景観・環境の保存と形成 9 CO2フリーの島づくり 10 利便性の高い交通アクセス環境の整備 11 インバウンドに対応したハード整備と情報発信 12 利用者の視点に立った観光情報の充実と多様な媒体等を通じた情報発信

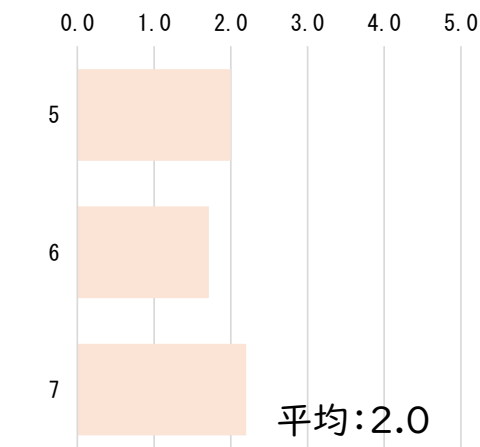
基本方針	具体的施策
基本方針4 「島いところ」の精神によるおもてなし 【ホスピタリティ醸成・人づくり】	
	13 町民主導のおもてなしの推進 14 屋久島の歴史・文化を学ぶ機会の提供 15 「島いところ」の精神を担う人材の育成と活用
基本方針5 協働による広域的・横断的ネットワーク体制づくり 【推進体制・広域連携】	
	16 屋久島町観光推進会議（仮称）の発足とマネジメント力の強化 17 口永良部島との連携強化 18 世界遺産やエコパーク、環境教育等のテーマに応じた広域的な観光の推進
基本方針6 自然の鼓動を体感する火の島「口永良部島」の活用 【新たな観光資源の発掘・活用】	
	19 口永良部島におけるライフラインの早期復旧作業の推進 20 口永良部島の再生と新たな魅力の創出（進化）
重点プロジェクト	
	- I 世界自然遺産の保全と活用を基本とした山岳観光の振興 - II 世界とつながるゲートウェイ機能の拡充 - III 観光立町を推進する屋久島町観光推進会議（仮称）の発足

- ・全体的に達成度が低く、特に「重点プログラム」「基本方針2地域連携・循環」の項目が低い。
- ・「重点プログラム」では、エコツーリズムにおける仕組みやルール作り、歴史・文化の継承・活用等、予定通り事業を達成している。一方、エコツアーについてより積極的に仕掛けていく必要や、ガイドの育成、安全に配慮した登山道やアクセス箇所の整備、空港や港の機能強化等が十分に達成できていない。また、屋久島町観光推進会議（仮称）の発足についても、関係機関等との連携・協議不足等により発足に至っていない。
- ・「基本方針2地域連携・循環」では、資源の掘り起こしを行い里のエコツアーの推進等が図られた。一方、島内流通の仕組みづくりや屋久島の食を活かした取り組み等については、役割分担や連携不足により達成に至っていない項目が多い。

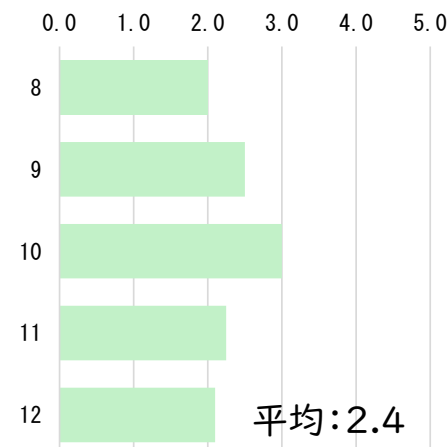
基本方針1：島内受入態勢



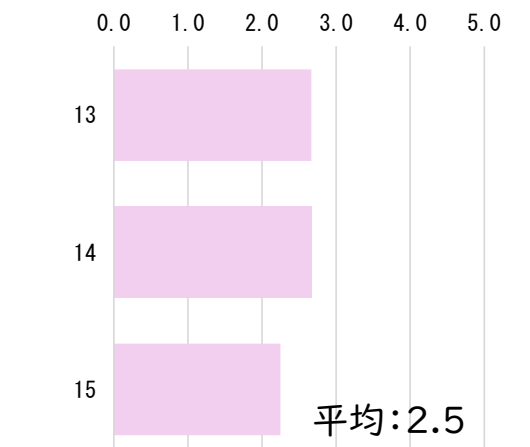
基本方針2：地域連携・循環



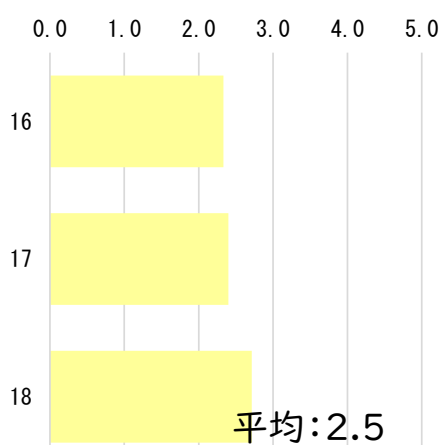
基本方針3：受入基盤・環境整備



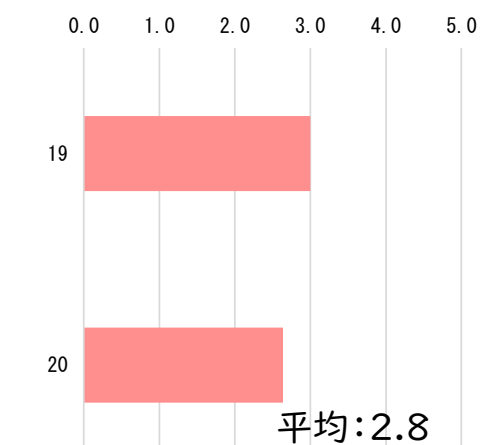
基本方針4：ホスピタリティ醸成・人づくり



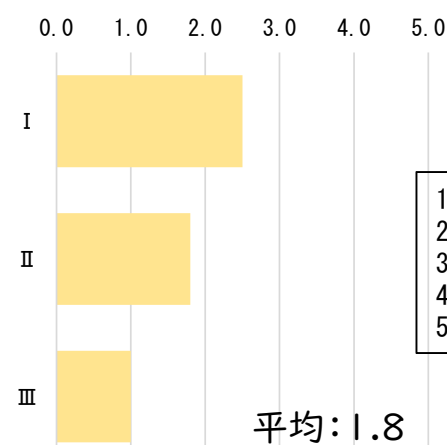
基本方針5：推進体制・広域連携



基本方針6：新たな観光資源の発掘・活用



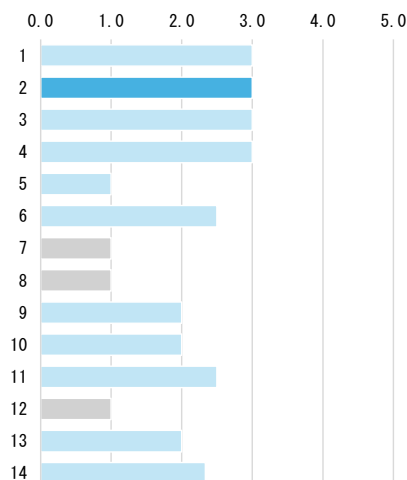
◇ 重点プロジェクト



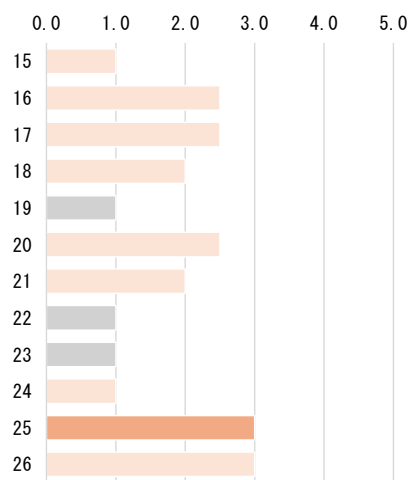
- 1.0 ほとんど（まったく）達成できなかった
 2.0 あまり達成できなかった
 3.0 予定通りに達成できた
 4.0 予定以上に達成できた
 5.0 予定を大きく上回り達成できた

- ・ 全体的に、達成できていない項目が多い。
- ・ 今後拡充継続または積極的に拡充・強化を想定する項目で、達成度の低かった項目として、「公用車や観光施設、事業者等での電気自動車（EV）やエコカー導入の推進」「乗り継ぎを考慮したダイヤや路線の検討」「観光（宿泊情報等）・交通情報（通行止め、運航情報等）の一元化と情報受発信システムの構築」「ガイド認定制度の推進」「観光施策の評価、検証の実施」「町民、観光客をつなぐガイドの育成や認定制度の推進」「空港機能拡充による新たな需要開拓」が挙げられる。
- ・ 達成できなかった要因として、他機関との連携不足や役割分担が不明確であったこと等があげられる。

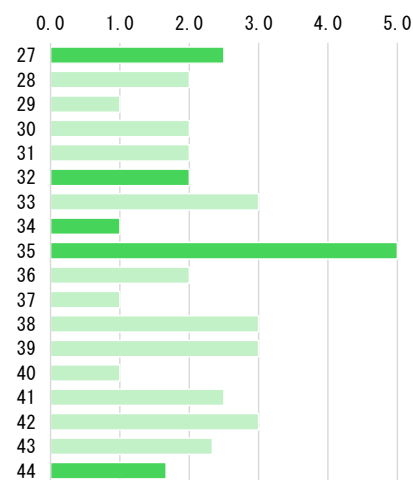
基本方針1：島内受入態勢



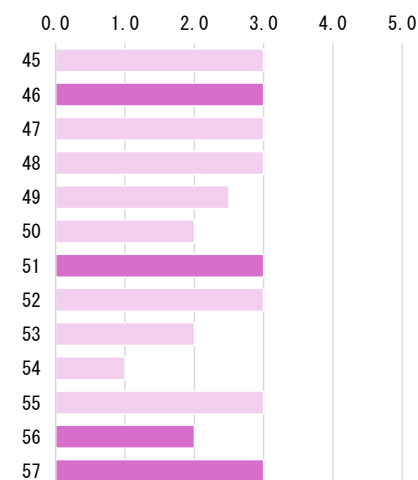
基本方針2：地域連携・循環



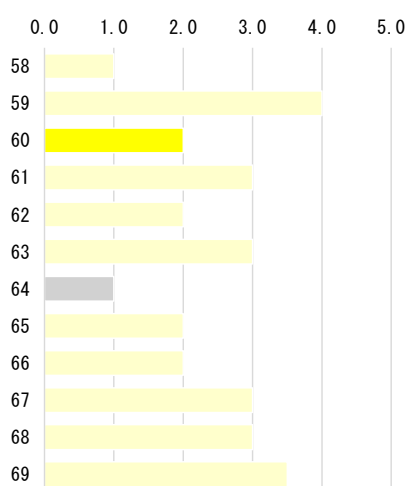
基本方針3：受入基盤・環境整備



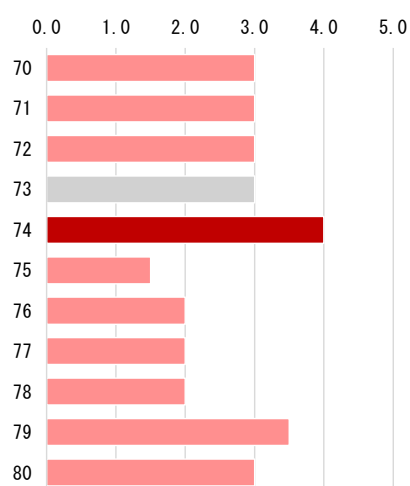
基本方針4：ホスピタリティ醸成・人づくり



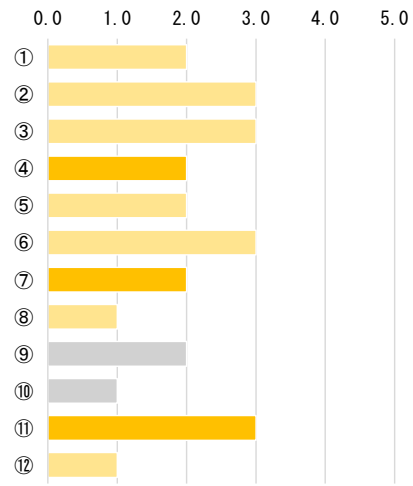
基本方針5：推進体制・広域連携



基本方針6：新たな観光資源の発掘・活用



◇ 重点プロジェクト



- 1.0 ほとんど（まったく）達成できなかった
 2.0 あまり達成できなかった
 3.0 予定通りに達成できた
 4.0 予定以上に達成できた
 5.0 予定を大きく上回り達成できた
 ■ 現時点で担当課が完了・廃止を想定
 ■ 濃色 担当課が拡充継続または積極的拡充・強化を想定

【基本理念】 エコツーリズムによる世界自然遺産「屋久島」の価値創造と観光立町

基本方針	具体的事業	
基本方針 1 エコツーリズムの島「屋久島」から世界に誇れるワンランク上の観光まちづくり 【 島内受入態勢 】		
	1 自然体験型エコツアーのさらなる充実と里地との連携強化 2 集落の個性を生かした里のエコツアーの推進 3 アウトドアスポーツ（スキューバ、カヌー等）の推進 4 登山目的の観光客に対応した体験型プログラムの開発 5 国籍や老若男女、障害等の有無や種類・程度に関わりなく、全ての人が屋久島を体験できるメニューの推進 6 環境教育フィールドとしての利活用の推進（SSH招へい、環境宿泊学習の受入） 7 宿泊業者と連携したグリーン（ブルー）ツーリズムの推進（半観半民）	8 室内スポーツを中心としたスポーツ合宿等の受入 9 屋久島の民話等を活用したプログラムやスタンプラリー等の周遊する仕掛けづくり 10 雨の島を楽しむメニューづくり 11 歴史、文化を体験できる施設の整備 12 朝や夜の観光体験メニューづくり（温泉めぐり等） 13 観光客が既存イベントや行事に参加・協力できる仕組みづくり 14 集落イベント・行事の情報発信の強化
基本方針 2 地域資源（ヒト・モノ・カネ）の融合による循環する仕組みづくり 【 地域連携・循環 】		
	15 生産者と観光事業者、飲食店等が連携した農林水産物の島内流通の仕組みづくり 16 健康、LOHAS等をテーマとした新たな屋久島食、郷土食の開発 17 郷土料理、食文化の発掘と提供機会の創出 18 集落の行事、イベント等での郷土料理の発信 19 屋久島の食と観光・交通等の情報を発信する拠点の検討 20 健康、LOHAS等をテーマとした新たな屋久島食、郷土食の開発【再掲】	21 屋久島の伝統工芸の体験メニュー化 22 商店街と連動した食のイベントの創出 23 無人市の集約等による購入しやすいシステムの検討 24 交流を広げるイベント企画や伝統芸能のブラッシュアップ（宿泊施設でのマルシェや地域芸能披露等） 25 集落の個性を生かした里のエコツアーの推進【再掲】 26 既存イベントや行事に観光客が協力、参加できる仕組みづくり【再掲】

基本方針	具体的事業
基本方針 3 満足度向上につながる受入基盤・環境の整備と情報発信 【 受入基盤・環境整備 】	
27 自然との調和、環境に配慮した観光地や景観スポットの整備 28 安全に配慮した登山道やアクセス箇所の整備 29 歴史的、文化的景観保存と活用の推進（小杉谷、石塚集落、楠川城跡等） 30 屋久島らしい路傍植栽活動の推進 31 全ての人にやさしい観光地づくり 32 公用車や観光施設、事業者等での電気自動車（EV）やエコカー導入の推進 33 環境に配慮した山岳部や観光施設等への相互乗り入れの推進 34 乗り継ぎを考慮したダイヤや路線の検討 35 新たな交通基盤の整備検討（空港拡張、大型船寄港に向けた整備） 36 国際化に対応した受入環境づくり（接客研修の充実や対応マニュアル等の作成）	37 観光コンシェルジュ（外国語ボランティア含む案内人）の確保、育成 38 県と連携したインバウンドプロモーション 39 パンフレットや案内板等のユニバーサルデザインの推進 40 旅行会社と連携した誘客プロモーションの展開 41 広報誌やSNS等を利用したきめ細かな情報発信の強化 42 統一デザインやわかりやすいパンフレット、案内板等の整備推進 43 集落イベント、行事の情報発信の強化【再掲】 44 観光（宿泊情報等）・交通情報（通行止め、運航情報等）の一元化と情報受発信システムの構築
基本方針 4 「島いここ」の精神によるおもてなし 【 ホスピタリティ醸成・人づくり 】	
45 あいさつ日本一運動 46 クルーズ船おもてなしの推進 47 集落の個性を生かした里のエコツアーの推進【再掲】 48 観光客が既存イベントや行事に協力、参加できる仕組みづくり【再掲】 49 広報誌やSNS等を利用したきめ細かな情報発信の強化【再掲】 50 屋久島らしい路傍植栽活動の推進【再掲】 51 屋久島高校と連携したおもてなし活動の推進 52 小中高生向け環境教育の充実	53 町民向け講習会や研修会等の開催（シンポジウム、屋久島検定等） 54 観光コンシェルジュ（外国語ボランティア含む案内人）の確保、育成【再掲】 55 環境文化村センターや屋久杉自然館と連携したインストラクターの育成 56 ガイド認定制度の推進 57 屋久島高校と連携したおもてなし活動の推進【再掲】

基本方針	具体的事業	
基本方針 5 協働による広域的・横断的ネットワーク体制づくり 【 推進体制・広域連携 】		
58 屋久島町観光推進会議（仮称）の発足 59 観光動向や顧客満足度を把握する統計調査の実施 60 観光施策の評価、検証の実施 61 イベント等による町民間の交流促進 62 屋久島と連携した体験プログラムの開発（温泉の活用など） 63 利便性の高い交通インフラの検討（チャーター船、ダイヤ変更等）	64 口永良部島未来創造協議会との連携強化 65 種子島と連携した教育旅行の推進や各種イベント等の開催 66 世界遺産をテーマとした奄美や県本土との連携 67 県外ユネスコエコパーク登録地との交流や情報交換 68 県と連携したインバウンドプロモーション【再掲】 69 屋久島の港、空港がむすぶ地域との相互連携による誘客促進	
基本方針 6 自然の鼓動を体感する火の島「口永良部島」の活用 【 新たな観光資源の発掘・活用 】		
70 被災者の生活支援 71 公共土木施設とライフラインの早期復旧 72 行政機能の回復 73 ごみ・産業廃棄物の処理 74 教育環境の確保 75 保健・医療・福祉の確保	76 雇用・生活資金の確保 77 農林水産業の初期復興 78 商工業の復興 79 安全安心の地域づくり 80 復興を支える財源・制度・連携の構築 など	
重点プロジェクト		
I 世界自然遺産の保全と活用を基本とした山岳観光の振興 ① 「生命の島」を学ぶフィールドとして環境学習・教育、エコツアーの利用推進 ② 岳参り等の山岳信仰の歴史・文化の継承・活用 ③ ユネスコエコパーク登録に向けた活動の展開 ④ 町民、観光客をつなぐガイドの育成や認定制度の推進 ⑤ 安全に配慮した登山道やアクセス箇所の整備【再掲】 ⑥ 人と自然の共生を目的とした循環する仕組み・ルールの検討・導入	II 世界とつながるゲートウェイ機能の拡充 ⑦ 空港機能拡充による新たな需要開拓 ⑧ 大型クルーズ船受入に向けたインフラ整備 ⑨ 空港や港における観光情報の集約と発信 ⑩ 世界自然遺産にふさわしいゲートウェイ空間の演出 ⑪ クルーズ船おもてなしの推進 III 観光立町を推進する屋久島町観光推進会議（仮称）の発足 ⑫ 観光立町を推進する屋久島町観光推進会議（仮称）の発足	

町民ワークショップについて

■開催目的

“観光”は目的ではなく、まちづくりや地域活性化の手段であるため、次期観光基本計画の最終目標は観光振興を通じていかに町民が望むまちを実現できるかが重要のため、現状の町民意識の把握が必要である。

そのため、町民に対してアンケート調査の他、町民ワークショップを実施し、集落に残る活用可能な資源の発掘や町民主体による観光推進を図る。

■実施内容

対象者	・町民（高校生、子育て世代・PTA、事業者、高齢者・自治会長 等）
場所	・屋久島町役場（安房支所・宮之浦支所）
実施時期	・2025 年 4 ～ 6 月頃
実施回数	・（連続性のある）2 回を想定（2 箇所×2 回＝4 回）
テーマ案	≪第1回≫ 1 各種アンケート調査結果報告等による屋久島町の状況共有 2 自分が思う屋久島町の売り・観光資源について考える（個人ワーク） 3 グループで話し合い、各世代が考える本町の「売り・観光資源」をまとめる （グループワーク（GW）） 4 洗い出した「売り・観光資源」のうち特に活かすべきものや、消費される懸念があり、残すため・守るために活かし方に工夫が必要なものを整理（GW） ≪第2回≫ 1 第1回の振返り 2 前回は振り返って、屋久島町の観光のあるべき姿や将来像を考える（GW） 3 将来像の実現に寄与してくれる観光客像（ターゲット・ペルソナ）を考える（GW）
実施方法	1 打ち解けた雰囲気発言できるレイアウト・内容を工夫するとともに、各グループに1名ファシリテーターを配置（※町職員も配置するかは要協議） 2 グループは5～6名で編成し、世代ごとに分類することによって、話しやすい雰囲気を作りだすことと、円滑に進めることを念頭に実施 ◇ 班分けのイメージ ◇□収集意見の活用イメージ ○屋久島町の現状報告と課題認識（アンケート結果等定量的な情報の定性的補完） ○グループで話し合い、各世代が考える残したい観光資源をまとめる ○屋久島町観光の将来像やターゲットを考える ●コントロールが必要な観光資源の整理 ●屋久島町が目指すべき将来像や狙うべきターゲット設定に活用

■募集方法について

1. 募集・告知媒体

- ・ 町の広報、HP、SNS 等

2. 募集・告知内容

- ・ 日時、場所、対象（3 参照）、定員（5 参照）、参加費（無料）、問合せ先
- ・ 備考（写真撮影・HP 公開の可能性がある、交通費負担や謝金は発生しない、送迎・保育等サービスはない、等の周知）

3. 募集対象

- ・ 町民（住民票の有無は問わない）
- ・ ただし、属性に応じたグループ分けを想定しているため、属性をイメージさせる例示をいれる（限定はしない）

例：「子育て世代、高校生、観光業に従事している方、移住してきた方、どなたでも歓迎です」等

- ・ それぞれ全 2 回の開催であること、それぞれの開催予定日を明記のうえ、原則として 2 回とも出席できることを応募条件とする（実際欠席してしまった場合もペナルティはなし）

4. 応募方法

- ・ メール、FAX、QR からの GoogleForm 等を併用
- ・ ただし、属性に応じたグループ分けを想定しているため、以下情報を求める（任意）

※ 個人情報の取扱いに関する同意のチェック、サインも集める

性別/年代/職業/居住エリア（校区）/居住年数（出身、移住の別）

5. 募集人数

- ・ 総数 40 名程度（2 箇所×20 名） 各 4 グループ想定
 ※ うち高校生 10 名（2 箇所×5 名）
- ・ 定員に満たない場合、グループを仮組して、不足する属性に対して個別アプローチ
- ・ 定員を超過した場合、グループを仮組して、超過する属性の中から適当な人数に抽選
- ・ 各グループ±1 人、全体で-2～+4 人程度は許容範囲とする